

タイトル	表紙・目次・論文扉・奥付
著者	
引用	年報新入文学(18)
発行日	2021-12-25

新 人文学

Annual Bulletin
of the
New Humanities
Vol. 18

【巻頭言】

ことばの履歴書——「人文」と「文化」 大谷通順

【論文】

日本中世徳政論再考のために

—ものはもどらなくても時は動くかもしれない

片岡耕平

平川唯一「英語会話」 テキストの分析

—後のラジオ講座を踏まえて—

柁木貴之



●【研究ノート】

レビ記における「穢れ」の概念 辻見祐太

【彙報】 令和二年度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧
文学研究科教育・研究発表活動覧

●編集後記



ことばの履歴書——「人文」と「文化」 大谷通順……………002

日本中世徳政論再考のために 片岡耕平……………010

—ものはもどらなくても時は動くかもしれない

平川唯一「英語会話」テキストの分析 榎木貴之……………105
(001)

—後のラジオ講座を踏まえて—

レビ記における「穢れ」の概念 辻見祐太……………059
(047)

Annual Bulletin of the New Humanities

Vol. 18

December 2021

Contents

Foreword

- Michiyori OTANI The Changing Meanings of Chinese Characters:
 “人文” and “文化”.

Articles

- Kohei KATAOKA One Suggestion For Rethinking *Tokusei* In Japanese Medieval
 Society
- Takayuki An Analysis of “English Conversation”
 MASAKI Texts by Tadaichi Hirakawa: With Reference
 to the Radio Programs that Followed

Essays

- Yuta TSUJIMI The idea of “Impurity” in Leviticus

Notes

Editorial Notes

論文

日本中世徳政論再考のために
—ものはもどらなくても時は動くかもしれない—

片岡耕平

平川唯一「英語会話」
テキストの分析

榎木貴之

—後のラジオ講座を踏まえて—



◆表紙の「ふくろう」について

表紙に描かれている「ふくろう」には、二重の意味が込められています。ひとつは古代アテネの「ミネルヴァのふくろう」に由来する、「知恵ないし学問」の象徴という意味です。哲学者ヘーゲルが、「ミネルヴァのふくろうは、日の暮れ始めた夕暮れとともに、はじめてその飛翔を始める」と述べたことは、つとに有名です。

もう一つの意味は、北海道に生息する天然記念物「シマフクロウ」に由来しています。シマフクロウは、北海道のなかでも手つかずの自然が残っている場所にしか生息しませんが、その表情には思慮深い哲人を思わせる威厳があります。古来アイヌの人たちは、この鳥をコタンコロカムイ（村の守護神）と呼んで神聖視してきました。

本誌は、この「ミネルヴァのふくろう」と「シマフクロウ」にあやかっ、北の大地から新しき学問の地平をきり拓くべく、大いなる飛翔の場たらんとするものです。

年報 新人文文学〔第十八号〕 Annual Bulletin of the New Humanities

発行日——令和三（二〇二一）年十二月二十五日 発行

編集者——北海学園大学大学院文学研究科『年報 新人文文学』編集委員会

北海学園大学大学院文学研究科内

〒〇六二―八六〇五 北海道札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号

電話（〇二）八四一―一六二〔代表〕 FAX（〇二）八二四―七七二九

編集委員——徳永良次・森川慎也

発行者——上野誠治

発行所——北海学園大学大学院文学研究科 札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号 電話（〇二）八四一―二六二〔代表〕

